

## 完成への道のり

商品はどのようなプロセスで完成されていくのか。企業によるアイデアの創出から新商品誕生までの開発ストーリーを紹介します。

# 無農薬食用バラの栽培確立し、次のステージへ

## 長谷川造園株式会社

### 公園の来客増目指し バラ栽培をスタート

「これ、1リットル精製するのバラ10000輪くらい必要なですよ」。化粧品原料などに使うという、バラから抽出した『細胞液』を手に長谷川氏は食用バラの説明を始めてくださいました。「バラを食用として使う歴史は長く、中国では古くからお茶の材料として使われていました。サプリメントや化粧品としての使い道も、古代エジプトのクレオパトラの時代からあったようですね」

同社がバラに着目したのは5年ほど前。2008年、ゆりの里公園の指定管理者となった同社では、ユリの咲かないシーズンの集客がかねての課題となっていました。



「年間5〜6万人の来客者数を向上にしようと、広場にコスモスやヒマワリなどさまざまな花を植えてみました。ユリのシーズンは6月で、ユリ以外の柱を作って継続的な集客につなげる必要がありますから」

試行錯誤を重ねる中、地域住民から「ボランティアでよいので植えさせてほしい」と

### 最終商品製造から 資材生産に軸足移す

しかし、バラには病害虫に弱いというウィークポイントがあり、従来の栽培では農薬を用いることが当たり前だったといいます。そこで、同社では食用資材としての展開も見据え特殊液肥による水耕栽培法を3年かけて確立させました。日本食品機能分析研究

術を契約農家にフィードバックしています。

### バラの鮮度を重視し 精製の内製化視野に

今後の課題は精製工程の内製化。「外注ですと精製1回当たり15〜20キロのバラが必要で、生バラの鮮度は1週間程度といわれており、花びら1輪を1グラムとしても、新鮮なバラを短期間で大量に集めるのはなかなか難しいんです」。新鮮さを保ちながら精製するためには内製化が避けて通れないことから、機材導入を視野に入れ準備を進めています。

創業から約40年間、戸建住宅の庭や公園の設計・施工などに携わってきた同社。バラ栽培技術は「本業」にも生かされ、昨年は3カ所でバラを取り入れた外構工事の実績もできました。ゆりの里公園管理事務所所長で、バラ栽培にも携わる吉澤氏も「造園一筋というのではなく、いろんな分野に挑戦できる会社の雰囲気がいい」と笑顔を見せます。



食用バラを粉（疎粉と極粉の2種）にした「ローズパウダー」と精製水「ローズウォーター」。国内生産の安心安全で注目を集めています。

所（福岡市）による267項目におよぶ検査でも「残留農薬なし」のお墨付きを得ています。

「2013年2月の『アグリフードEXPO大阪2013』という展示会に、食用バラを使ったラスクやクッキー、コンフィチュールなどを出した

ところ、さまざまな企業の方が興味を示してくださいました。当時は食用バラ加工品が少なかったからではないでしょうか。しかし、売価や生産数量などの面で折り合いがつかなかったことから、ほかに香りが漂うバラ粉末や精製水など資材生産に軸足を移



食用バラのハウスの中での花摘み体験の様子。



母の日に商品化した食用バラのセット。



屋外のバラ園も来園者に人気です。

販路開拓について尋ねると「ニッチ分野の食用資材メーカーという軸さえできれば結果は自ずとついてくる」と長谷川氏。「70年生きてきて、食の安心安全というものに改めて真剣に取り組む機会を得ることができました。この事業を発展させることでいろんな方に喜んでいただき、地域に対する恩返しができる」と意欲をのぞかせます。

### 長谷川造園株式会社

http://ryokutei-nagomi.com/

所在地：坂井市春江町大針8-10

電話番号：0776-51-0836

代表者：長谷川 範彦 氏

資本金：1,000万円

従業員数：15名

事業内容：公共造園・土木工事請負、工場緑化・屋上緑化・民間造園工事設計施工、バラ加工品の製造・販売等



吉澤 芳美 氏



長谷川 範彦 氏